

令和7年度

加茂名南小学校
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

○自分で考え、判断し、行動する児童を育成する授業の実践

校長

学力向上推進員

【各校の取組状況の把握について】

外部講師や管理職、教員相互による授業参観、校内研修等、さまざまな機会をとらえ、取組状況の把握を行う。

○次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○基礎的・基本的な知識・技能を身に付けようとする意欲が育ち、集中して学習に取り組んでいる。 ●当該学年で身に付けておくべき知識・技能が十分定着しておらず、学力の二極化が見られる。学習したことを、生活に生かす力の育成が課題である。 ●語彙数が少なく、文章を読み取ることが苦手である。	・基礎的・基本的な知識や技能を身に付けることができる。 ・知識・技能の習得のために、適切に学習用具(ノート・ものさし・タブレット端末など)が活用できる。 ・読書に親しみ、文章を正確に読み取ることができる。	・個に合わせて、ドリルやプリント、タブレット端末を活用して、基礎的・基本的な知識・技能が確実に身に付くようにする。 ・定期的に確認テストを行うなど、反復練習を行い、学習の定着を図る。 ・朝の活動などの隙間時間を活用し、音読・読書タイムを実施し、基礎学力の定着を図る。	具体的方策を継続していく。	・朝活などで小テストや反復練習をすることで、基礎的・基本的な学習の習熟を図ることができた。 ・基礎的な力が身に付いている児童は多いが、学力の二極化に課題がある。 ・漢字の読み書きや語彙力に課題があり、身に付けた知識を活用していく力も十分でない。	・朝活などの時間の使い方を工夫し、小テストや反復練習、音読を通して、基礎基本の定着を図っていく。 ・読書の時間を増やしていく。 ・タブレット学習で、個別に応じた課題に取り組めるようにする。

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○ペアやグループ学習での話し合いでは、自分の考えを発言することができる児童が増えてきた。 ●自分の考えを分かりやすく表現したり、まとめたりすることが苦手である。 ●全体の場での発表に苦手意識がある児童がいる。	・相手の話を最後まで聞くことができる。 ・目的に応じて、自分の考えと比較しながら話を聞いたり、自分の考えをまとめたりすることができる。 ・一人一人が自信をもって、自分の考えを表現することができる。	・ペアやグループ活動、ホワイトボードやタブレットを活用して、伝え合う学習を取り入れ、考えを交流できるような場面や時間を確保する。 ・児童同士の信頼関係づくり、認め合える仲間づくりを行い、表現しやすい環境作りに努める。 ・児童が自信をもって表現できるように、ヒントを出したり、言葉を補ったりするなど、手立てを講じる。	具体的方策を継続していく。	・自分の考えをもち、書いたり相手に伝えようとしたりする児童が増えた。グループ活動だと、意見を出し合う姿が見られた。 ・「聞く」ということに課題が残り、相手の話を最後まで聞くことができなかつたり、大事なことや要点を聞き逃していたりする児童がいる。	・タブレットのロイロノートなどを用いて、発表が苦手な児童でも考えを表現できるようにする。 ・学年に応じて「話し合いの型」を作成し、児童の発言をつなげていくような発表の工夫を取り入れ、児童同士の話し合いが深められるようにする。 ・子どもの考えを深められるように話し合いの場を設けたり、発問や授業づくりを考えたりしていく。

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○意欲的に学習し、課題に対して、最後まであきらめずに取り組む児童が多い。 ●苦手なことやつまずきがあると最後まで取り組むことを諦めたり、受け身になったりする児童がいる。	・一人一人が毎時間の学習に目標をもち、積極的に授業に参加している。 ・「次はこんなことを学びたい」と意欲をもち、授業や家庭学習に取り組む。	・研修を行い、教員の授業力の向上を図り、「分かった・できた」と思える授業の充実を図る。 ・毎時間のめあての明確化、学習の流れを示すなど、見通しがもてるようにする。 ・家庭学習の手引きや進め方を活用し、家庭と連携しながら家庭学習・自主勉強・音読活動の習慣化を図る。	具体的方策を継続していく。	・授業に見通しをもたせることで、落ち着いて学習に取り組む児童が増えた。また、苦手なことにもチャレンジしようとする前向きな姿勢も見られるようになった。 ・「自主学習の手引き」を作成したり、友達をノートを見せ合ったりすることで、自主学習の内容の充実を図ることができた。	・次時の学習内容を提示するなど、安心して授業にのぞめる工夫を取り入れていく。 ・スモールステップで成功体験を積みませ、活動への不安を減らしていく。 ・家庭との連携を図り、家庭学習に取り組む習慣を身に付けられるようにする。